

平成25年度 第4回 府中市高齢者保健福祉計画・  
介護保険事業計画推進協議会会議録

- 1 日 時 平成26年1月7日(火) 午後3時～5時
- 2 会 場 市役所北庁舎3階第6会議室
- 3 出席者 <委員>  
鈴木(眞)会長、近藤委員、澤田委員、篠崎委員、鈴木(恂)委員、能勢委員、  
原田委員、向井委員、村松委員、矢ヶ崎委員、山口委員、渡邊委員  
  
<事務局>  
(福祉保健部)  
芦川福祉保健部長  
(高齢者支援課)  
川田福祉保健部次長兼高齢者支援課長、  
安齋地域支援統括担当主幹兼施設担当主幹、  
浦川高齢者支援課長補佐兼介護保険担当副主幹、  
楠本地域支援係長、立浪介護サービス係長、鈴木施設担当主査、  
林介護認定係長、田中事業者指導係長、鈴木福祉相談担当主査、  
山中介護予防担当主査、石谷包括ケア担当主査、  
三竹地域ネットワーク担当主査、奥主任、石附事務職員  
(地域福祉推進課)  
宮崎地域福祉推進課長補佐兼福祉計画担当副主幹、飯泉事務職員  
  
<コンサルタント会社>  
(株式会社生活構造研究所) 半田氏、早福氏
- 4 欠席者 佐藤副会長、田口委員、松本委員
- 5 傍聴者 3名
- 6 議事前  
(1) 委員の交代
- 7 議事事項  
(1) 府中市高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画策定のためのアンケート調査  
結果(速報)について

- (2) 府中市高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画策定のためのグループインタビュー調査結果について
- (3) その他

## 7 議事内容

- (1) 府中市高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画策定のためのアンケート調査結果（速報）

ア 府中市高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画策定のためのアンケート調査結果（速報）について、資料1～資料2に基づき、事務局より説明。

イ 質疑応答、意見等

会 長 調査は12種類と多岐にわたっている。膨大であるが、内容について質問や意見をいただきたい。前回調査と比べると回収率はほぼ同様な傾向になっている。回収率は市民の元気な方の回収率は高いが、施設利用者の回収率は少し低いこれは仕方がない。

委 員 資料1の6ページの施設サービス利用者について、全体的に満足度が前回調査より下がっていると書かれている。内容をみると満足度は概ね50%程度。実は私共の施設で第三者評価を受けた。その利用者調査の満足度はこのように低くはないが、どう考えればよいか。

会 長 今回のアンケート調査と第三者評価による調査で、利用者の満足度に違いがあるとのこと指摘があった。どちらが正しいとはいえないが、どう考えるか。

委 員 特別養護老人ホームの利用者はその先の行き先がないので、満足度が高くなっていると考えることもできる。

会 長 施設サービス利用者の有効回答率は前回より若干低くはなっているが、ほぼ同様の率となっている。今回調査の満足度をもって施設サービスの状況が悪いとは一概にはいえないと思う。

委 員 今回の調査結果は施設利用者トータルのもの。施設を種類別に見れば当然違うし、個別の事業所でも違うと思う。この数字を見て一概にはいえないと思う。

会 長 今後、施設の種類のクロス集計を見ていきたい。

事務局 今回の集計に「ふつう」と回答した数を入れていないが、「満足・やや満足」に「ふつう」を合わせると8割くらいになる。

会 長 日本人の傾向として、「良い」「悪い」のどちらかではなく、中間の回答をしがちな特徴があるという見方もある。ただ、施設の方はこの数字をどう思われるか。施設になかなか入れない状況の中で、満足度がこの程度というのは、在宅の介護の方にとってはどうなのかと思う。在宅で施設に入りたい人は多いので、施設利用者の満足度が70%くらいならと思う。施設では一生懸命介護をしていると思うけれども満足度が低いという結果が出ている。

委 員 施設を使う人によって違う。私共の施設はレスパイト、ショートでたくさん使われている。その場合は、助かったと思う方が多い。ケースバイケースで何

とも言えない。日本人はどちらかというと「普通」と回答することが好き。とっても良ければ「良い」、とっても悪ければ「悪い」と回答するが、それ以外は「普通」と回答する人が多い。この数字は施設全体の数字で個別の施設は違うと思うので、余り気にしてはいない。

事務局 **資料2**の集計結果の⑤施設サービス利用者の6ページの問16を見ていただくと、「ふつう」の割合が出ている。第三者評価の利用者調査と比べると「満足・やや満足」の割合が低くなっていると思われる。

委員 今回の回答と重複するところもあるが、**資料1**の6ページで施設サービスが「役に立っている」との回答が8割と示されている。この結果をみるとケアマネジャーとしては施設を紹介して良かったという印象を持っている。

会長 入所した当初は、入れて良かったという気持ち強いが、半年、1年と時間が経つと生活は毎日のことなので、どうしても満足度が下がってくるのかもしれない。施設側としては一生懸命に介護をしているのだから満足度がもう少し高く出て欲しいと思うが、日本人はなかなか「満足」とは言わない傾向があるということではないか。

委員 個別の施設のデータを見たいと思う。

会長 今回の結果は、施設サービスに不満が多いということではないと思う。

事務局 施設サービス利用者調査は、今後、施設の種別別のクロス集計を予定しているので、老人保健施設、特別養護老人ホームではどうかを見ることができる。また、入所者の要介護度別のクロス集計を予定している。

会長 施設に入られた方は恵まれた方だと思うが、在宅では家族が介護してくれるから良いという方が多かった。それでいて認知症の割合が高くなっている。これからは在宅サービスが非常に大変になると思われる。

委員 今回、事業者調査とケアマネジャー個人への調査が前回調査より回収率が高くなったので喜ばしいと思っている。事業者連絡会で調査に回答するよう通達した。その結果が出ていると思う。また、会長が言われたように認知症についての調査が行われ、新しい項目が加わったことは評価する。

委員 調査⑥のサービス未利用者調査では問3で要介護度を聞いているが、要介護度別のクロス集計はできるのか。

会長 できる。

委員 要支援1、2でサービス未利用者の場合は、それなりに理由が理解できるが、介護度が重度で未利用の方は、家族の負担だけで問題を済ませるのではなく、その理由を在宅サービスの利用料の負担感を含めて考えないといけない。また、地域の実態がつかめないのではないかと思う。

会長 サービスを利用しないで頑張っているのか、利用料が負担で利用しないのか分からない。要介護度の重い方の実態を把握する必要がある。そのような意味では、介護保険制度、地域包括支援センターの認知度もまだまだ低いようだ。

委員 よく問題とされるのは、本当に支援を必要とする人の家族の中に、公的支援

に拒否反応を示す人、他人が家に入るのを嫌がる人がいるケースである。そのような人を行政がどのように救っていくのが課題となる。そのようなことは調査をしてもなかなか見えてこない。

会 長 数は少ないがそのような方がいるということである。そのような方には地道に対応していくしかないのだろうか。その他、精神障害の家族がいるなどの困難事例はケアマネジャーが頭を悩ませる難しい問題だと思う。

委 員 介護保険の問題は必要になったら調べるなど、いろいろあるが、保険料を払っているので必要な時に使えるようにしなければいけないと思う。以前、「介護保険はオムツが必要になったら使うもの」と言われたことがあって驚いた。これからは団塊世代が介護保険サービスの利用者になる。団塊世代はインターネットを利用する人も多いので情報収集の面で期待している。同時にいろいろなところでPRすることが重要となる。私のところも地域包括支援センターが2ヶ所あるので、PRに取り組みたい。

テレビ等を見ていると認知症の問題が多く取り上げられている。今回、認知症について調査をしたのは最初の試みとして良かったと思う。ただ、認知症とは一言で何なのか、案外わからないものなので、大きく分けると4つのタイプがあることなどをいろいろなところで話していきたい。「認知症になったらどこか入らなければならない」という考え方ではなく、長谷川和夫先生も言われている認知症の症状などを分かりやすく話していきたい。今回の調査の結果を大いに活かして課題として示して欲しい。

ケアマネジャー調査の回収率は前回と比べると確かに上がって喜ばしいことだとは思いますが、介護のプロとしては100%に近い回答をするのが基本だと思う。書けないところは仕方がないが書けるところは書いて返事をするように職員に言っている。プロとしての意識をもっと持って欲しいと思っている。

会 長 私としても、事業所やケアマネジャーからの回収率が市民と同じ程度なのは残念に思う。府中市の給付を受けている事業者なのだから府中市からの調査には当然答えなければならないと思う。

委 員 せめて9割以上であってほしい。市民がエネルギーを使っていることをプロが分からないといけない。そこが分からないと、共助や公助といっても、連携がうまくいかないのではないかな。

会 長 医療と介護の連携については、医療従事者調査の結果をみると、医療側は介護と連携していると思っている割合が高く、介護従事者と齟齬が少しある。医療の方は診療につなげることに意識があり、医療から介護への連携についての意識は強くないのかもしれない。

委 員 感想を含めて3点ある。

1点目は、**資料1** 3ページの調査②高齢者一般調査の中では、これからの生活の場所について「家族等の介護を受けながら自宅で生活したい」24.1%、「介護保険居宅サービスを受けながら自宅で生活したい」が23.6%、両方

を合わせると、半数近くが「自宅で生活したい」と答えている。一方では、施策への要望は、「介護施設」が43.6%となっている。これは全てが入所施設でないと思うが、選択肢は「特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設を増やすこと」なので、自宅で生活し続けたいといいつつ、実際には施設に入らざるを得ないという、市民の基本の気持ちと実際の気持ちの違いがうかがえると思う。そのため、自宅で生活したい人の施策要望のクロス集計ができればもう少し実態が分かると思った。

2点目は、**資料1**10ページの調査⑧認知症に関する意識・実態調査では、対象が40歳以上だが、60～70歳代の方からの回答が多かったと記載されている。全体で「とても関心がある」「まあまあ関心がある」を合わせると8割の人が「関心がある」となっている。これは年齢的な特徴はあるのかと思う。回答数が少ないので比較はなかなか難しいと思うが、若い世代と高齢者の関心の度合いが違うのか、「関心がない」と答えている人は若い世代が多いのか、年齢的な特徴があるのかクロス集計で出せるとよい。それが分かれば施策のターゲットが定まるのではないかと思う。

3点目は、**資料1**17ページの調査⑫医療従事者調査で、医療と介護の連携について、「十分連携している」10.4%、「ある程度連携している」55%で、合わせると約3分の2が「連携している」と思っている。しかし、カンファレンスやサービス担当者会議への出席経験が「ある」は2割となっている。これをみると回答者によって連携のイメージがかなり違うのではないかと思っている。それぞれがどのようなイメージで連携していると答えたのかどうか、この調査でみるのは難しいと思うが、分析する時に補足が必要かと思う。

会 長 他に意見があればお願いしたい。

委 員 参考までに申し上げたい。日本人の場合は年齢的な違いがある。更に言えば、40歳代・50歳代と後期高齢を迎える者とは違うと思う。2つを比較すると、日本人は「普通」と返事をするのが特徴という話が先程あったが、私の考えでは、40歳代・50歳代は「まあいいでしょう」や「普通ですよ」と当たり障りのない返事はしない。むしろ後期高齢者の方は周りを気にして当たり障りのない答えをする。世代で2つに分かれていると思う。それを同じような考え方で見てもよいのかと思った。

## (2) 府中市高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画策定のためのグループインタビュー調査結果

ア 府中市高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画策定のためのグループインタビュー調査結果について、**参考資料2**に基づき、事務局から説明。

イ 質疑応答、意見等

会 長 グループインタビューの結果をみると、リアルな切実な声が聞かれた。多くの方に協力していただいたので、この声を無駄にしないようにサービス事業所

や地域包括支援センターの職員にも市民の声を吸い上げる努力につなげていきたい。ご意見やご質問があればいただきたい。

アンケートでは特別養護老人ホームや老人保健施設の整備への要望が高いが、グループインタビューでの市民の声をみるとケア付き有料老人ホームに入るという声も多くみられる。特別養護老人ホームや老人保健施設は入れないと諦めたということなのか。これが現実なのか

委員 グループインタビューの結果には非常にリアリティのある意見がたくさん出ている。もう少し整理して、地域包括支援センター、サービス提供事業者に市民の声を伝えて、それぞれが改善すべき取り組むべき課題、第6期介護保険事業計画に反映すべきこと、あるいは行政が対応すべきことなど、ここに示された生の声をどのように届けるべき所に届けるか、課題意識を持った整理をして欲しい。ただリアルな声が聞かれただけでは、生の声が活かされないと思う。

会長 介護保険料を上げるな等のいろいろな意見が出されている。介護保険法改正により、要支援者の事業が介護保険から外されることもある。出された生の声に全て応えられるわけではない。また、グループインタビューに参加された方も全てがすぐに解決できるとは思っていないと思うが、ご意見ご感想など聞かせていただきたい。

事務局 今日のところは、アンケート調査もグループインタビュー調査も速報として報告させていただいた。委員の方々から、情報提供のあり方、課題意識を持った整理など、ご意見をいろいろいただいたが、これからアンケート結果のクロス集計を行う中で、必要な課題や問題を拾い出しながら課題別の整理を行う予定でいる。ご理解をいただきたい。

会長 地域のコミュニティの中では、人間関係の緊張、人間関係のあり方がこれからの一番の問題のように感じられる。市でできることは限られている。市民の方たちがお互いに助け合って行かないといけないということは、市民の方たち自身も分かっている。自治会が大切という意見もあった。グループインタビューの結果は、これから課題として整理していくことになっている。今日のところは感想でも、あれば話していただきたい。

委員 感想だが、府中に来て40年くらいになる。地域で支え合っていくことを考える時、新旧住民の軋轢の問題は大きな課題だと思っている。社会福祉協議会でも地域づくりを進めているが、本音のところ、行きつくところは、「わだかまり」であり、新旧住民の融合に踏み出せないところがある。それを言っても仕方がないので社会福祉協議会としても、地域に出て、三世代で住んでいる人以外は認めないという意識を持つ人々に積極的に働きかけていく必要があると思っている。

委員 結果を見て、市民のニーズに対して府中市としてどのような仕組みを作っていくかということだと捉えている。市と地域包括支援センターと市民が、どういう仕組みをつくっていくか。判断能力のなくなった方に対して、市はどう対

応していくか。そのために地域包括支援センターがあると思っている。市民の生の声を聞いて、仕組みづくりの中で地域包括支援センターが市民のニーズに応えているのかという視点を持って、本日いただいた第6次府中市総合計画やアンケート結果を読み込んで次回協議会に備えたいと思う。

委員 ゴミの集積ボックスがあった時はその周りで人々が話をしていて、そこにコミュニティがあったかと思う。現在はボックスがなくなったが、ボックスはコミュニティを支える1つの手段だったかもしれない。そのような人の集まる場ができればできるほどコミュニティができるのではないかと思う。私も父の代から府中に住んでいる。父は医療に携わっていたので、その仲間の集まりがあった。現在はそのようなものはないが、府中には確かに歴史があると感じている。

会長 井戸端会議のような仕掛け、世代間交流の仕掛けが必要とのご意見をいただいた。それでは本件についてはこれまでとしたい。アンケートについては膨大で重い課題があるが、今日は半分、あるいは3分の1くらい情報を共有したということで、次回にまた議論を深めていきたい。

### (3) その他

#### ア 報告

(7) 平成25年度府中市事務事業点検の点検結果に対する市の方針について、参考資料3に基づき、事務局より説明。

(4) 地域密着型サービス指定関係部会開催報告について、参考資料4に基づき、事務局より報告。

イ 質疑応答、意見等  
特になし。

### (4) 開催日程について

次回開催予定は平成26年2月4日（火）午後3時。

以上